

植研 36: 385-388. 4) ————. 1962. モクセイ科の系統と先行倍数性. 植研 37: 25-27. 5) Maekawa, F. 1962. Reduction in chromosomes and major polyploidy: their bearing on plant evolution. Journ. Fac. Sci. Univ. of Tokyo. Sec. III, Botany, 8: 377-398. 6) Matsuura, H. and Suto, H. 1935. Contributions to the idiogram study in Phanerogamous plants I. Journ. Fac. Sci. Hokkaido Univ. 6(5): 32-75. 7) 品川鉄摩. 1963. 壱岐島産キビヒトリシヅカについて. 植研 38: 29-31. 8) ————. 1963. 再び壱岐島産キビヒトリシヅカについて. 植研 38: 350-352. 9) Sugiura, T. 1936. A list of chromosome numbers in Angiospermous plants II. Proc. Imp. Acad. Japan 12: 144-146.

○シオザキソウ (田中 肇) Hazime TANAKA: Common names of *Tagetes minuta* L.

本誌 39 卷 3 号に久内清孝先生が和名さまざまと題した記事の中にシオザキソウ (*Tagetes minuta* L.) について記しているが、次の点を補足したい。

本種は 1956 年に私が東京都江東区塩崎町 (久内先生の記事では江戸川区となっているが誤りである) で採集したものを科学博物館の佐竹義輔・奥山春季両先生が同定されたものである。それに佐竹先生がコウオウソウと同属であることからコゴメコウオウソウと名づけ、私が採集と飼育 19 卷 5 号 (1957) に発表した。そのご、奥山先生からの私信で採集地にちなみシオザキソウとしたいと知らせられたので、採集と飼育 20 卷 3 号 (1958) に書いた帰化植物図集 1 ではシオザキソウ一名コゴメコウオウソウとして図解した。奥山春季著原色日本野外植物図譜 5 卷 (1960) にはシオザキソウ別名コゴメセンジュギクとあるがコゴメセンジュギクの名の出所は知らない。原産地は南米のペルー・ブラジル・アルゼンチン・チリーで北米にも侵入しているという。

本種の帰化を採集と飼育に発表しただけであったため混乱がおきたようなので、もう 1 種 *Aster exillis* Ell. をオオホウキギクと新称し採集と飼育 20 卷 4 号 (1958) にその帰化を報告したことをつげくわえておく。(東京都文京区 [redacted])

□モクレイシ 東京都立大学の牧野標本館で、故牧野先生ののこされた標本を分担整理されている松山庫三氏は、野草 278 号にモクレイシの北限産地として神奈川県大磯の高麗山をあげているが、この山で、この木を最初に会見された行きさつを記しておく。それは 1915 年のことで、発見者は当時神奈川県植物調査委員で、同県農学校教諭であった中邑之という人であった。この人が同山でとったモクレイシとカゴノキを牧野先生に示されたという。先生は当時としては意外な産地であったので驚きかつ喜ばれた。そのわけは 1911 年に東京帝国大学理科大学が大日本植物志第 4 集を刊行し、それに空前絶後ともいうべき精密な図を公表された直後のことで、当時わざわざ九州から材料をとりよせて図説されたほどで、その頃はこれが関東に産することが知られていなかったからであった。記して当時を想起してそのころをしのぶ次第である。(久内清孝)